

## 古文 読解問題 「沙石集」三文にして齒二つ」① 問題

南都に、齒取る唐人<sup>ア</sup>ありき。ある在家人の慳貪にして、利養を先とし、ことに触れて商ひ心のみありて、徳もありけるが、<sup>①</sup>虫の食ひたる齒を取らせむとて、唐人がもとに行きぬ。齒一つ取るには、錢二文に定めたるを、「一文にて取りてたべ。」と<sup>イ</sup>言ふ。少分のことなれば、ただも<sup>ウ</sup>取るべけれども、心ぎまの憎さに、「ふつと一文にては<sup>エ</sup>取らじ。」と言ふ。やや久しく論ずるほどに、おほかた<sup>②</sup>取らざりければ、「さらば、三文にて齒二つ取りたまへ。」とて、虫も食はぬに、よき齒を<sup>オ</sup>取り添へて二つ取らせて、三文取らせつ。<sup>③</sup>心には利分とこそ思ひけれども、疵なき齒を失ひぬる、<sup>④</sup>大きな損なり。これは、申すに及ばず、大きにおろかなること、をこがましきわざなり。

問一. 次の「沙石集」の知識に関する問いに答えなさい。

① 「沙石集」が成立した時代を答えなさい。

② 「沙石集」と同じジャンルの作品を次の選択肢の中から全て選びなさい。

|        |        |         |          |       |
|--------|--------|---------|----------|-------|
| ア 枕草子  | イ 土佐日記 | ウ 大和物語  | エ 宇治拾遺物語 | オ 十訓抄 |
| カ 伊勢物語 | キ 日本書紀 | ク 古今著聞集 |          |       |

問二. 傍線部<sup>ア</sup>の動詞の種類と活用形を答えなさい。(○行○活用○形)

問三. 傍線部①「虫の食ひたる齒を取らせむとて、唐人がもとに行きぬ」を現代語訳しなさい。

問四. 傍線部②「取らざりけれ」と③「心には利分とこそ思ひけめ」の動作主をそれぞれ文中から抜き出しなさい。

問五. 傍線部③「大きな損なり」とあるが、その理由として、最も適切なものを選びなさい。

- ア. 当初の取り決めでは齒一本二文であったのに、交渉の結果、予定外に三文を支払うことになり、経済的損失が生じたため
- イ. 虫歯だけを抜くつもりであったにもかかわらず、虫に食われていない健康な齒まで抜かせてしまい身体的に回復不能な損失を被ったため
- ウ. 唐人との値段交渉に固執した結果、かえって商売心の浅はかさを露呈し、社会的評価を損なったため
- エ. 少額の金銭にこだわったために、交渉が長引き、時間と労力を無駄にしたことが損失であると筆者が判断したため

# 読解問題 「沙石集」三文にして齒二つ」① 解答・解説

問一. ① 鎌倉時代後期

② エ(宇治拾遺物語)、オ(十訓抄)、ク(古今著聞集)

問二. ア. ラ行変格活用・連用形

イ. ハ行四段活用・終止形

ウ. ラ行四段活用・終止形

エ. ラ行四段活用・未然形

オ. ハ行下二段活用・連用形

問三. 虫が食った歯を取らせようと、唐人のところに行った

問四. ②唐人 ③在家人

問五. イ